



# 臨床研究部 からのお便り

## タイでの国際学会 APAAACI&APAPARIに参加して

第12回

10月11日から14日まで、タイのバンコクで開催されたAsia Pacific Association of Allergy, Asthma and Clinical Immunology(APAAACI) & Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respiriology and Immunology(APAPARI)に参加させて頂きました。アジア中から集まった医師達が英語を駆使して活発に議論を行い、非常に熱気があふれていました。またバンコクの大都市ぶりにも大変驚かされました。

私は「家族の中で発症したブロッコリーアレルギー」について発表させて頂きました。ブロッコリーは身近な野菜ですが、正式にはアブラナ科アブラナ属に分類され、カリフラワーやキャベツなども同じアブラナ属です。このアブラナ属はよもぎや同じ属同士で交差反応(あるアレルギーに反応するIgE抗体が他のアレルギーにも反応する現象)を示すことがすでに分かっています。今回、年齢に関係なくたくさんの方が少量でもブロッコリーを食べると喉のかゆみや息苦しさなどのアレルギー症状が出てしまうご家族にご協力頂き、ブロッコリーのアレルギーについて研究させて頂きました。新鮮なブロッコリーを用意して、特殊な液体を加えてタンパク



質を取り出す作業を行い、これを使って好塩基球活性化試験を行いました。アレルギーの刺激で活性化された血液の成分を測定する特殊な検査です。結果はブロッコリーを食べると症状が出る人の大部分は陽性でした。交差反応があるよもぎや同じアブラナ科の菜の花でも同じ検査を行ったところ、よもぎは全員が陰性

でしたがたくさんの方が菜の花に対して陽性となりました。実際に菜の花を食べるとアレルギー症状が出る人も多くいました。なぜこのご家族の多くの方がブロッコリーに対してアレルギーを発症してしまったのかをはっきりさせることはできませんでしたが、菜の花が関係しているのではないかと考えました。実は三重県は菜の花の生産量が日本一なのです。

このような特別な環境にいるために菜の花に対して抗体が作られ、さらに同じ遺伝子をもち同じ環境で生活しているご家族にブロッコリーのアレルギーを引き起こしたのではないかと推測しました。今後、さらに詳しく調べていきたいと思っています。最後にこの場をお借りして、研究にご協力いただいたご家族の方々にお礼を述べさせていただきます。

(アレルギー科 星 みゆき)



### 通所 支援事業

### 「ボランティア」

通所支援事業では、制作・スヌーズレン・ハンモック・パラシュート・音楽活動等を中心に季節の行事を含め、さまざまな療育活動を行っています。その中で11月1日、Honda HEAT(本田技研のラグビー部)の皆さんがジャパンラグビートップリーグのチャリティー活動の一環として、『FOR CHILDREN』を掲げ、社会福祉法人中央共同募金様のご協力を得て、難病と闘う子どもたちに向けた施設訪問活動として、三重病院の重症心身障害病棟+通所支援へ遊びに来て下さいました。

当日は、8名(うち、選手5名)が試合本番で着るユニホーム姿で登場!! 患者さんや利用者さんはその大きな姿にびっくりした様子で目をキョロキョロさせた

り、「あ〜!」と大きな発声をあげたりしていました。ラグビーボール回しでは、とっても白熱したゲーム展開にみんな顔を真っ赤にして取り組み、笑顔と歓声でいっぱいになりました。



最後はみんな写真撮影を行いました。病棟の患者さん、通所支援の利用者さん、ご家族、そして…病院職員にとっても、楽しい時間を過ごすことができました。Honda HEATの皆さん、本当にありがとうございました。またの機会を楽しみにしています🎵

(主任児童指導員 丸澤 由美子)